

# 千葉県における食育推進の取り組みについて

資料 3

## 1 ちば「食へのこだわり」県民づくりプロジェクト推進連絡会議構成課

平成 16 年 5 月 24 日設置、平成 18 年 6 月 16 日改正、7 部 27 課

総合企画部(4 課室)、総務部(1 課)、健康福祉部(4 課)、環境生活部(2 課)

商工労働部(2 課)、教育庁(5 課)、農林水産部(9 課)

## 2 ちば「食へのこだわり」県民づくりプロジェクト事業実績の概要

事業名	事業実績(17年度実績)
継続して実施している事業 1 ちば食育活動促進事業 (安全農業推進課) 平成 16 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農林振興センターにおける食育ボランティア講習会、意見交換会の開催 10 か所</li> <li>・ちば食育ボランティア活動促進事業 県歯科医師会など 10 団体</li> <li>・食育ボランティアの登録数 3,803 名</li> <li>・食育サポート企業数 101 社</li> <li>・シンポジウムの開催 H17.11.28(月)市民会館 800 人</li> <li>・食育ボランティアだよりの発行 20,000 部</li> <li>・食育ボランティア活動事例集の作成 1,500 部</li> <li>・食育懇話会の開催 H18.2.21(火)</li> </ul>
2 魚食普及を通じた食育の推進事業(水産課) 平成 16 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食への県産水産物の食材提供 対象：松戸市内小学校 30 校 24,750 食 7 月 アジ、10 月 サンマ、2 月 イワシ</li> <li>・「おさかな通信」による情報発信 4 回</li> <li>・料理教室へ講師の派遣 7 回</li> <li>・高校家庭科授業へ講師の派遣 3 回</li> </ul>
3 若年者健康づくり推進事業 (健康づくり支援課) 平成 16 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨スカ防止キャンペーン 各健康福祉センターで養護教諭・栄養士等を対象に研修会を開催、リーフレット作成 20,000 部</li> <li>・若者のための食と健康教室 小・中・高校生等を対象に講話や調理実習により開催</li> <li>・食生活改善推進員研修</li> </ul>
4 カムカム歯ッピースクスクちばっ子事業(健康づくり支援課) 平成 17 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児摂食機能発達支援リーフレットを作成 50,000 部</li> <li>・市町村歯科保健担当者研修会</li> <li>・保育所保育士研修会</li> </ul>
5 食に関する学習ノート (学校保健課) 平成 16 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する学習ノート「いきいきちばっ子」を新 1,3,5 年生用に増刷 175,100 冊</li> </ul>
6 千葉の食文化まるごと体験事業 (文化財課) 平成 17 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土料理の映像記録製作(菓子作り)</li> <li>・食文化講習会 6 回</li> <li>・郷土料理製作体験 10 回</li> </ul>
17 年度までの実施事業 7 小・中学校等農業体験受け入れ支援事業(農業改良課) 平成 16 年度～17 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊体験の研修 118 名</li> <li>・地域農業講座及び親子料理講習の開催 各 10 地区</li> </ul>
8 骨密度調査から始める健康教育推進事業(学校保健課) 平成 16 年度～17 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨密度調査の実施 県内 2 地域 小学 6 年生 651 人、中学 1 年生 650 人</li> </ul>
9 「おいしい野菜や果物等の選び方」啓発事業(農業改良課) 平成 16 年度～17 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の農産物のおいしいものの選び方を冊子及びインターネットで紹介 26,000 部</li> </ul>
10 学校給食における千産千消推進事業(学校保健課) 平成 16 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千産千消学校給食コンクールの開催 一食献立部門 74 件、単品献立部門 111 件の応募</li> </ul>

ちば2006年アクションプラン  
(抜粋)

平成18年3月

千葉県

## 【参考資料】

## ちば2006年アクションプラン施策担当課一覧表

施策番号	施策名	主務部局	担当課	電話番号 043(223)
戦略1	産業クラスター戦略の推進による千葉県経済の活性化	商工労働部	産業振興課	2613
戦略2	観光立県千葉の実現	商工労働部	観光課	2414
戦略3	日本一の安心農林水産物「千葉ブランド」の確立	農林水産部	農林水産政策課	2807
戦略4	「健康づくりふるさと構想」の推進	健康福祉部	健康づくり支援課	2405
戦略5	安全・安心な生活空間づくり	環境生活部	県民生活課	2333
戦略6	みんなでつくる新しい地域社会	総合企画部	政策推進室	2484
1	分権型社会を支える市町村への総合的支援	総務部	市町村課	2362
2	次世代育成支援対策の推進	健康福祉部	児童家庭課	2317
3	男女共同参画社会の実現	総合企画部	男女共同参画課	2372
4	NPO立県千葉の実現	環境生活部	NPO活動推進課	4147
5	ちば文化の創造に向けて	環境生活部	文化振興課	2408
6	便利で活力ある社会に向けたIT利活用の推進	総務部	情報政策課	2189
7	「新たな地域福祉像」の実現に向けた基盤整備	健康福祉部	健康福祉政策課	2609
8	地域・家庭に重点を置いた生活(自立)支援	健康福祉部	健康福祉政策課	2609
9	自らつくる健康と安心を育む医療	健康福祉部	健康福祉政策課	2609
10	一人の人間としての尊厳の確保	健康福祉部	健康福祉政策課	2609
11	個性が輝く教育の推進	教育庁	教育政策課	4177
12	心と体の教育と健やかな青少年をはぐむ環境づくり	教育庁	教育政策課	4177
13	防災体制の強化と災害に強い県づくり	総務部	消防地震防災課	2174
14	生活者としての県民の安全・安心の確保と体制整備	環境生活部	県民生活課	2293
15	交通安全県ちばの確立	環境生活部	交通安全対策課	2257
16	活力ある県土の基盤づくり	県土整備部	県土整備政策課	3166
17	豊かなくらしと環境を創造する県土の基盤づくり	県土整備部	県土整備政策課	3166
18	良好な大気・水環境の確保と環境再生の推進	環境生活部	環境政策課	4660
19	資源循環型社会づくりの推進	環境生活部	資源循環推進課	2758
20	産業廃棄物の適正処理対策	環境生活部	産業廃棄物課	2656
21	残土対策の推進	環境生活部	産業廃棄物課	2656
22	三番瀬の再生	総合企画部	企画調整課	2439
23	森林の保全と総合利用	農林水産部	林務課	2951
24	地域を支える中小企業の活性化	商工労働部	経営支援課	2790
25	産業社会を支える就業支援と人材育成	商工労働部	雇用労働課	2743
26	国際化に対応した力強い農林水産業の展開	農林水産部	農林水産政策課	2807
27	成田空港の機能拡充と国際空港都市づくり	総合企画部	空港地域振興課	2280
28	つくばエクスプレス沿線の大学と地域の連携による国際学園都市と産業拠点の形成	総合企画部 県土整備部	企画調整課 都市整備課	2207 3545
29	複合機能都市「幕張新都心」の形成	企業庁 商工労働部	幕張新都心整備課 経済政策課	296-8921 2714
30	サイエンス・パーク「かずさ」の国際的地位の確立	商工労働部	企業立地課	2420
31	国際化の推進	総合企画部	政策推進室	2255
32	県庁経営システムの質的転換	総務部	総務課	2461
33	県内外への効果的・戦略的な広報とひらかれた県政運営	総合企画部	報道監	2242

## 戦略プロジェクト3 日本一の安心農林水産物「千葉ブランド」の確立

### <本年度のねらい、展開の方向>

消費者の視点を踏まえた農林水産業への質的転換を図ることにより、他県の追随を許さない新鮮さとおいしさで親しまれ、信頼を持って受け入れられる「千葉ブランド<sup>1)</sup>」の確立を目指します。

このため、本年度の「ちばエコ農産物<sup>2)</sup>」の栽培目標面積5,000ヘクタールの実現に向け、エコ米として期待できる新品種「ふさこがね<sup>3)</sup>（愛称）」の本格生産や新技術の導入など、安全・安心な農林水産物の生産拡大を推進します。さらに、千葉ブランドの安定的な生産を図るため、今後、大量に退職する団塊の世代や企業等の新規参入を促進するとともに、観光、健康、食品産業等との連携により個性豊かな産地づくりを進めます。

また、千葉のさかなのブランド化を推進するため、千葉ブランド水産物として認定された千葉のさかなを重点的にPRするとともに、「色よし、味よし、香りよし」で知られる「千葉県産のり」の評価をより高めるため、高水温耐性のあるノリ養殖品種の改良に取り組みます。

さらに、消費者と生産者のお互いの顔が見える関係を活かした新たな流通システム「千産千消ネットワーク」の構築や「朝揚げ水産物直送便」の定着化を推進するとともに、県産農産物生産販売戦略会議を設置し、首都圏に向けた販売戦略を積極的に展開します。

加えて、県民の食への不安を払拭し、「食の宝庫ちば」に育った喜びを実感できるよう「食育<sup>4)</sup>」を推進するとともに、「千葉県食品等の安全・安心の確保に関する条例」のもと、食の安全管理体制の充実強化を図っていきます。

### (最終的な成果を表す指標)

目標項目	現状（基準年）	目標（目標年）
ちばエコ農産物栽培面積	1,913ヘクタール (16年度)	5,000ヘクタール（18年度） 10,000ヘクタール（20年度）
千産千消ネットワークの構築	千産千消ネットワークを構成する「加工センター」の整備(17年度)	情報システムの開発と集配送センターの整備（18年度） 千産千消ネットワークの本格稼働（19年度）
千葉ブランド水産物の認定品数（累計）	—	10品目（18年度） 20品目（20年度）

### <施策展開の柱・重点事業>

I 安全・安心な農産物の象徴である「ちばエコ農産物」の生産面積の拡大を図るとともに、「千葉ブランド」の安定的な生産を目指した農家の技術向上の支援と担い手の育成を行うことにより、個性豊かな産地を形成していきます。

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
ちばエコ農産物産地拡大運動の展開【安全農業推進課・農業改良課】 40,070千円	「ちばエコ農産物」の生産目標面積1万ヘクタールに向け、飛躍的な面積拡大を図るため、農業総合研究センターでの試験研究、農林振興センターで現地における普及展示を積極的に行います。 また、直売所、道の駅等の近隣農家を対象にした講習会・研修会の開

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
	<p>催、産地育成や販売促進を支援する産地アドバイザーの設置により「ちばエコ農産物」の生産拡大を推進するとともに、生産者、消費者、販売業者を一堂に会した意見交換会等を行い「ちばエコ農産物」への理解促進を図ります。</p> <p>さらに、エコファーマー<sup>5)</sup>の認定促進や次世代型養液栽培システムの開発により、環境にやさしい農業の推進を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちばエコ農産物栽培研修会 10地域</li> <li>・「ちばエコ農業」躍進地域フォーラムの開催 3地域</li> <li>・「ちばエコ農業」産地アドバイザーの設置 10地域</li> </ul>
<p>安全安心を基本とした創意工夫による個性豊かな産地の育成</p> <p>【農業改良課・生産振興課・畜産課】</p> <p>81,824 千円</p>	<p>地域の創意工夫を活かした個性豊かな産地づくりを目指して、農業者の独創的な取組や多様な戦略の策定に対する支援を行います。</p> <p>また、世界初の種子なしピワ「希房」の早期産地定着のために、産地における実証・展示を行うとともに、18年度に一般栽培が始まる米の新品種「ふさこがね（愛称）」の円滑な普及のために、モデル展示ほ場の設置やキャンペーンなどの生産・販売促進を行います。</p> <p>さらに、本県独自の品質の優れた和牛の確保のため、優良親牛の増殖と子牛の県内自給体制の構築を図るとともに、遊休農地や里山を活用した放牧による肉牛の育成に取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある農産物の商品開発・販路開拓等に係る支援 10地区</li> <li>・「希房」の現地実証展示ほ場の設置 10か所</li> <li>・「ふさこがね」の販売促進キャンペーン 30か所</li> <li>・放牧実証展示施設（固定・移動）6か所</li> </ul>
<p>農業の雇用の促進、新規参入の促進、民間の活用</p> <p>【農林水産政策課・農業改良課】</p> <p>28,828 千円</p>	<p>今後、大量に退職する団塊の世代が地域農林業の担い手として活躍できるように生産技術や経営などの講習会による支援を行うとともに、あらゆる世代の新規就農希望者等が気軽に相談できる相談窓口の充実に努めます。</p> <p>また、16年度に整備した「アグリチャレンジファーム<sup>6)</sup>」を活用し新規就農希望者が即戦力となるよう実践的な研修を行います。</p> <p>さらに、農林水産業に携わる女性の起業活動やネットワークづくりを支援し、女性の経営参画を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農相談、求人・求職紹介 200件</li> <li>・アグリチャレンジファーム研修 20回</li> <li>・帰農者等就農促進講座 10地域</li> <li>・千葉県農山漁村いきいき指標行動大会 1回</li> </ul>
<p>新たな事業の創生、食品産業の参入・連携強化</p> <p>【農業改良課・生産振興課】</p>	<p>食品関連産業等が求める農産物について、情報交換を密にするため、ちばの「食」産業連絡協議会を開催します。</p> <p>また、県内外の食品産業との商談会・情報交換会の開催やFOODEX JAPAN等への出展などにより、生産者と加工業者や流通業者などの</p>

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
24,365 千円	<p>幅広い分野の実需者<sup>7)</sup>との出会いの場の創設や連携を深めることで、販路開拓や新商品開発を促進します。</p> <p>さらに、地域のおいしく個性的な農産物や加工品などの掘り起こしなどオリジナルブランドづくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちばの「食」産業連絡協議会 3回</li> <li>・オリジナルブランド産地育成検討会 10回</li> </ul>

(柱の成果を表す指標)

目標項目	現状(基準年)	目標(目標年)
新品種の育成数 (7年度からの累計)	27 品種 (16 年度)	35 品種 (18 年度) 37 品種 (20 年度)
ちばエコ農業産地指定地区数	67 地区 (17 年 8 月)	80 地区 (18 年度)
ちばエコ農産物品目数	59 品目 (17 年 8 月)	70 品目 (18 年度)
「ちばエコ農産物」技術 開発品目数(累計)	10 品目 (17 年度)	16 品目 (18 年度)
エコファーマー認定数	798 人 (16 年度)	1,500 人 (18 年度)
牛を放牧するか所数(累計)	4 か所 (17 年度)	10 か所 (18 年度)
定年帰農者等就農促進講座参 加者数	75 人 (17 年度)	120 人 (18 年度)
新規就農相談件数	188 件 (16 年度)	200 件 (18 年度)
女性起業家数(農家)	301 経営体 (17 年 3 月)	340 経営体 (18 年度)
県内外食品関連業者との商談 会開催数	2 回 (16 年度)	3 回 (18 年度)

<施策展開の柱・重点事業>

II 新鮮でおいしい千葉のさかなを安定的に供給し、消費者が安心と信頼を持って購入することのできる「千葉のさかなのブランド」を作り上げていきます。

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
千葉のさかなブランド戦 略の構築 【水産課】 1,848 千円	<p>漁業者、加工業者、消費者、料理人等で組織する「千葉のさかな販売戦略有識者会議」を中心に、県産水産物の販売促進、消費拡大を図るための戦略を構築します。</p> <p>また、千葉のさかなのおいしさを支える人々と、おいしさに共感し応援する消費者を結ぶため、ホームページ「千葉さかな倶楽部」を開設します。</p> <p>さらに、地域の優良水産物を「千葉ブランド」として認定し、千葉の</p>

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
	<p>さかなのブランド力の強化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「千葉のさかな販売戦略有識者会議」の開催 4回</li> <li>・ホームページ「千葉さかな倶楽部」の開設 9月</li> <li>・千葉ブランド水産物認定審査委員会の開催 2回</li> </ul>
<p>千葉のさかなの販売促進 【水産課】 17,653 千円</p>	<p>県内漁港に朝水揚げされた高鮮度の水産物を消費地市場の機能を活用して、その日のうちに都市部の消費者の食卓に届ける直送試験により、直送システムの早期定着を目指します。</p> <p>また、県産水産物や漁業等を紹介する千産千消冊子の各種イベントでの配布、直売所や漁家民宿などの観光と連携したスタンプラリーの実施等を通じて、千葉のさかなの販売促進活動を支援するとともに、展示試食会の開催等により、千葉ブランド水産物の重点的なPRを行います。</p> <p>さらに、鮮度落ちしやすい水産物をとれたての鮮度そのままに流通させる技術や水産加工品の開発に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費地へ向けての直送試験の実施 10回</li> <li>・FOODEX JAPANへの出展 1回</li> <li>・スタンプラリーの実施 外房地域 1月</li> <li>・「千葉ブランド」水産加工品の開発 1品</li> </ul>
<p>養殖魚介類ブランド化の推進 【漁業資源課】 13,832 千円</p>	<p>「色よし、味よし、香りよし」で知られる「千葉県産のり」の評価をより高めるため、高水温耐性のあるノリ養殖品種の改良に取り組み、市場評価の高い新ノリの生産時期を早め、年内生産量の増加を図るなど安定生産体制の確立を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外から高水温耐性のある野生種の収集 2種</li> <li>・養殖品種の高水温下での選抜育種試験 通年</li> </ul>

(柱の成果を表す指標)

目標項目	現状 (基準年)	目標 (目標年)
ホームページ「千葉さかな倶楽部」アクセス件数	—	12,000 件 (18 年度)
朝揚げ水産物直送便の定着 (輸送量)	1.7 トン (16 年度)	23 トン (18 年度) 40 トン (20 年度)

<施策展開の柱・重点事業>

Ⅲ 県内の消費者や実需者が欲しい時にいつでも「千葉ブランド」を購入することができる「千産千消」に向けた販売・流通体制を整えていきます。また、販売戦略のもと首都圏をはじめ全国の消費者に県産品を自信をもって提供する「千産千消・千産全消」を進めるとともに、海外への輸出促進を図ります。

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
千産千消・千産全消のための販売・流通体制の確立 【生産振興課・畜産課・林務課】 109,626 千円	<p>県内はもとより首都圏に向けた県産農産物の販売促進活動を戦略的に展開するため、県と生産者団体で構成する「県産農産物生産販売戦略会議」を設置します。</p> <p>また、食品関連産業や量販店等の実需者が、県産農産物を欲しい時に、いつでも手に入れられる「千産千消ネットワーク」の19年度の本格稼働に向け、集配送センター、供給体制・情報機能の整備を進めます。</p> <p>さらに、「ちばエコ農産物」をはじめとする県産農産物を消費者がいつでも、どこからでも買えるようネット・カタログ販売などの直接販売の強化を図るとともに、「ちばエコ農産物販売協力店」の一層の登録拡大を推進します。</p> <p>このほか、全国に誇るブランド材「サンプスギ」のすばらしさをPRするとともに、「安全・安心の県産畜産物」のイメージアップ、消費拡大を進めるための広報活動等を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千産千消ネットワークの情報システムの開発 3系統</li> <li>・ちばエコ農産物販売協力店の登録推進 340店</li> <li>・サンプスギのモニタリング調査の実施 50棟分</li> </ul>
農産物の輸出 【経済政策課・生産振興課】 17,400 千円	<p>県産農産物・食品等の輸出促進を図るため、東アジア地域を中心に海外見本市への出展やテスト輸出を行うとともに、県産農産物及び植木の輸出向け商品の開発や海外販売活動に取り組む生産者団体等を支援し、「千葉ブランド」農産物や植木の輸出機会の拡大を図ります。</p> <p>また、植木については、海外で有望な品種の輸入に対する取組を支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外見本市への出展及び商談会の開催 5回</li> <li>・テスト輸出の実施 6か国</li> <li>・輸出セミナーの開催 2回</li> <li>・輸出に取り組む団体等への支援 9団体</li> </ul>

(柱の成果を表す指標)

目標項目	現状 (基準年)	目標 (目標年)
ちばエコ農産物 販売協力店 (累計)	124 店 (うち都内 19 店) (16 年度)	340 店 (うち都内 40 店) (18 年度) 550 店 (うち都内 50 店) (20 年度)
販売戦略会議の開催	—	6 回 (18 年度)
販売促進セミナーの開催	—	10 回 (18 年度)
輸出に取り組む団体数	7 団体 (17 年度)	9 団体 (18 年度)
サンプスギの利用材積 (素材) (累計)	—	9,000 平方メートル (18 年度)



<施策展開の柱・重点事業>

IV 県民が食材豊富な千葉県に育った喜びと健康を実感できるよう、安全、安心のための推進体制を整備するとともに、自ら「食」について考え、健全な食生活を身に付ける食育を推進します。

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
<p>ちば「食へのこだわり」 県民づくりプロジェクト 【健康づくり支援課・安全農業推進課・水産課・学校保健課・文化財課】 39,759 千円</p>	<p>「ちば食育ボランティア」や「ちば食育サポート企業」の活動を支援するとともに、食育ボランティアの地域ごとのネットワークづくりを進め、食育活動の促進を図ります。</p> <p>また、小学生向けの食に関する学習ノート（いきいきちばっ子）の配布、骨粗しょう症や生活習慣病を予防する骨スカ防止キャンペーン、食と健康教室の開催、食生活改善推進員等の研修会など、地域連携のもと食育の推進による若年者健康づくり推進を行います。</p> <p>さらに、乳幼児からの嚙む力の育成を図るための啓発、小学校へ県産水産物の給食食材や情報を提供する魚食普及を通じた食育などを行うとともに、千葉の食文化の体験や映像記録の制作により本県における食文化に関して理解を深めます。</p> <p>これらにより子どもの頃から「食」や「農」に関する正しい知識を得て、自ら「食」について考え、健全な食生活を身に付ける「食育」の取り組みを、学校、地域、家庭などで幅広く推進するとともに、食育基本法に基づき県の食育推進計画を作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育ボランティア活動支援</li> <li>・「ちばっ子元気に」食と農の体験事業 小・中学校 30校</li> <li>・小学生向けの「食に関する学習ノート（いきいきちばっ子）」を1・3・5年生全員に配布 170,000部</li> <li>・千葉の食文化講習会の開催 年5回</li> <li>・骨粗しょう症予防のための指導用リーフレットの配布 60,000部</li> <li>・「食と健康教室」の開催 14保健所</li> <li>・乳幼児の嚙む力の育成のためのリーフレットの配布 50,000部</li> <li>・県産水産物を小学校モデル校の給食食材として提供 15校</li> </ul>
<p>「千葉ブランド」を保証する「生産記帳運動」と農産物生産・流通履歴管理（トレーサビリティ）の推進 【安全農業推進課・畜産課】 14,410 千円</p>	<p>千葉ブランドの安心を保証するため、農業者が農産物の生産記録を記帳し、いつでも公開できるよう生産者組織、生産者に対して記帳運動を展開するとともに、消費者が農産物の栽培状況などの情報追跡ができるトレーサビリティシステム<sup>8)</sup>の構築を図ります。</p> <p>また、牛肉については、生産履歴や飼養管理情報の正確性を期するため、農協等によるエラーチェック体制づくりを進めます。</p> <p>豚肉についても有効な生産・流通履歴管理システムを構築するとともにトレーサビリティシステムの信頼性を確保するため、DNAを用いた親子鑑定検査を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産履歴記帳研修会の実施 10地域</li> <li>・農産物トレーサビリティ推進講演会の開催 1回</li> <li>・牛の耳標管理 全戸</li> <li>・飼料抽出検査 60検体</li> <li>・豚のDNA親子鑑定検査の実施 10検体</li> </ul>

重点事業名 担当課/予算額	事業内容
食の安全・安心体制の充実 【衛生指導課・安全農業推進課】 16,777千円	消費者や食品関連事業者等へ千葉県食品等の安全・安心の確保に関する条例の周知を図るとともに、情報や意見の交換を行うリスクコミュニケーションを通じ、消費者や食品関連事業者、県がそれぞれの役割や責務を認識し、協働して食の安全・安心の確保を推進します。 また、食品に起因する健康被害・危害を防止するため、消費者の視点に立ち、食品の検査体制の充実強化、食品表示の適正化や農薬の適正使用に向けた普及・啓発、正確でわかりやすい情報の提供など、食の安全・安心の確保対策の充実を図ります。 ・意見交換会の開催 3回 ・ホームページ「食の安全・安心電子館」の運営 ・食品表示の巡回指導・啓発 ・食品表示ウォッチャー <sup>9)</sup> の設置 50人 ・農薬安全使用研修会の開催 5回 ・農薬登録拡大試験の実施 3作物・3農薬 ・農薬販売、使用者への立入検査 1,700件 ・農薬管理指導士の認定 1,000人(3年ごとに更新)

(柱の成果を表す指標)

目標項目	現状(基準年)	目標(目標年)
学校給食における旬の県産野菜使用割合	85% (16年度)	85%以上 (18年度)
学校給食への県産水産物の提供校数	15校 (16年度)	15校 (18年度)
ちば食育ボランティアの登録者数	3,803人 (17年度)	4,000人 (18年度)
豚トレーサビリティ実施出荷頭数	6,000頭 (17年度)	20,000頭 (18年度)
食品販売店等における食品品質適正表示率	64% (16年度)	70%以上 (18年度)
人口10万人当たりの食中毒罹患率(5年平均)	13.7人 (16年度)	13.4人 (18年度)

【注】

- (1) 千葉ブランド：千葉県産なら、新鮮・おいしい・安全・安心と生産者が自負でき、千葉県産なら、いつでも・どこでも・安心して消費者が納得して購入できる農林水産物の総称です。
- (2) ちばエコ農産物：生産履歴記帳が義務付けられており、農薬、化学肥料を50%以下に減らした農産物(千葉県が認証するもの)です。
- (3) ふさこがね：千葉県で育成した水稻新品種「ちば28号」の愛称です。コシヒカリ並みにおいしく、粒が大きくて病気に強い特徴があります。
- (4) 食育：生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものであり、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。
- (5) エコファーマー：「持続性の高い農業生産方式の導入促進に関する法律」に基づき土づくり、減化学肥料、減農薬栽培の計画を作成し、県知事から認定を受けた農業者のことです。
- (6) アグリチャレンジファーム：新規就農希望者の研修農場です。
- (7) 実需者：実際の(直接の)需要者のことです。例えば、野菜をレストランに供給する場合、最終的な需要者はレストランで食事をする人ですが、実需者はレストラン(業者)となります。
- (8) トレーサビリティシステム：生産・流通履歴管理。食品の生産、加工、流通などの各段階で、原材料の仕入れ先や食品の製造元、販売先などを記録・保管し、食品のたどってきた経路と情報を把握できる仕組みです。
- (9) 食品表示ウォッチャー：JAS法による食品表示がより適正に行われるように、日常の買い物などで継続して食品販売店などの食品の品質表示状況をモニターするとともに、不適正な食品表示を発見した場合には、通報していただく方々のことです。